

# みどりの

題字 寺門光輝

みどりの第91号

発行所 茨城キリスト教大学  
茨城県日立市大みか町  
6丁目11番1号  
発行者 上野尚美  
編集 地域・国際交流センター

## 四年間を振り返って

学長 上野尚美



いつも本学の教育にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。二〇二四年三月三十一日に学長任期を終了を迎えるにあたり、時系列で四年間を振り返ってみました。

二〇二〇年四月、学長就任と同時に学長を委員長として「新型コロナウイルス対策会議」を発足させ、コロナ禍への対応が始まりました。教育の質を担保しつつコロナ禍を乗り越えることができたのは全教職員の協力によるもので、今でもとても感謝しております。

二〇二〇年九月、大学基準協会による認証評価を受審しました。本学は適合評価をいただき、特に学生支援、地域貢献、国際交流の項目については、高い評価を得ることができました。

二〇二〇年～二〇二二年、大学新一号館建設のために建築委員会が設置され、業者選定、学内各部署・関係者の意見を聴取し、施工業者との設計打ち合わせを半年以上かけて行い、二〇二二年八月に新一号館が完成しました。いただいたすべての要望を叶えることはできなかったかもしれませんが、太平洋に思いを馳せながら学習できるスタディエリアを含む学生の居場所を多く作ることに、本学が重視している国際交流を学内で実践可能にするグローバル・エクステンジ・エリアを設置することができました。とても眺望のよい五階のグローバルラウンジは、様々なイベントにも活用されています。

二〇二三年四月、児童教育学科から経営学科に定員一〇名を移動しました。六月、文部科学省から「未来教養学環」の届出設置可能という通知をいただきました。この「未来教養学環」は、VUCAといわれる予測困難で複雑な未来において、課題の発見・解決を通して未来を切り拓いていく人物を育成する教育課程です。全学部・学科の専門知のエッセンスを幅広く学べ、異なる専門分野の「かけ算」により実践的な学びを提供する特色あるカリキュラムが備わっています。

二〇二四年四月、茨城県内の私立大学では初めての学環である「未来教養学環」が新設されます。また、教員養成課程のさらなる充実を目指し、「教職支援センター」も設置されます。引き続き、どうぞよろしくお願致します。

## 未来教養学環について

未来教養学環長 佐々木隆宏

一九六七年に文学部だけの単科大学として開学した本学は、社会構造の変化や社会からのニーズを見据え、人材育成と社会貢献に資するべく改編を繰り返しながら体制を整えてきました。そして、現在では四学部七学科、大学院三研究科を擁する総合大学となっています。

「十年ひと昔」と言われた昔と比べて、現在は「一年ひと昔」といってもよいくらいに、急激に変化しています。さらにCOVID-19や生成AI、地球環境の変化による影響など、予測困難で不確実、複雑で曖昧な世の中になってきていることは、実感される方も多いのではないのでしょうか。このような世界はVUCA (Volatile, Uncertain, Complex, Ambiguous)ともよばれ、今後は一層VUCAな世の中になってゆくとされています。

VUCAな世の中では一つの専門知だけでは解決することが難しいとされる問題が生じるともいわれています。そこで、分野横断的な問題解決が必要となりますが、そのように解決するために、単に異なる分野の専門家が集まって知恵を出し合うだけでは、問題は解決されないどころか、かえって問題を拗らせてしまう可能性もあります。そこで、様々な専門分野のエッセンスを身に付けていて、多様な人々と協力しながら未知の問題を解決に導くことができるような人材が必要となるのです。

また、茨城キリスト教大学が所在する茨城県北部地域は、大手企業関連施設の海外移転による影響や人口減少など多くの課題を抱えています。その一方で、臨海部の産業集積や豊かな自然環境など、課題解決に資すると思われる資源が数多くあります。つまり、課題の多い地域ではあるけれども、一方で、課題解決のヒントとなるような環境もある、そのような場所には学環があります。

したがって、分野横断的に解決しなければならぬ問題を解決へと導く人材の育成が本学の使命でもあると考えます。そして、地域的な特徴を生かしながら問題を解決する学びを通して得られた知識・技能や思考力等は、他の地域の問題解決にも貢献できる知識となります。そういう知識等をもった人材を輩出し、地元地域はもちろんのこと、広く世界中でグローバルに活躍できる人材の育成が本学に求められているといってもよいと思います。

しかしながら、本学に限らず、これまでの大学は、一つの専門知を究める教育・研究を行ってきたことから、様々な専門分野のエッセンスを身に付けながら分野横断的に問題を解決する学びを行う場がありませんでした。

そこで、四学部七学科のもつ教育研究資源を最大限に活用し、各学科の有する専門知を背景とした総合的な学びを提供することにより、分野横断的な問題解決を行うことを通じて、予測困難で不確実、複雑で曖昧な状況を乗り越え、我々市民社会が未来を切り拓いてゆくことにしっかりと貢献することのできる人物を育成するために「未来教養学環」(以下、「学環」と記します)を開設する運びとなりました。

学環は全学部全学科が授業面と人材面の両面で連携してできる、既存の学部学科とは異なる組織です。授業面では、各学科の専門知のエッセンスを教養として学ぶことのできる科目を全学科から提供してもらいます。また、「未来教養プロジェクト演習」では、学生が自らの課題意識に基づいて設定したプロジェクトを遂行するために、異なる専門分野の教員が複数人で指導にあたります。複数の専門分野の知識の掛け算により、新たな知を創出することが狙いです。

学環では、他にも、これからの世界を強く生きてゆくために必要な「データサイエンス」科目や、仕事や日常でも幅広く求められる「汎用的スキル」科目なども学ぶことができます。定員は、一人ひとりの学生のニーズに合わせた学びを提供するため、他学科と比べて少ない二〇名としています。少人数ですが、これからの未来を力強く切り拓いてゆくことのできる人物を一人ひとり丁寧に育ててまいります。

## 我が学園の教育理念

茨城キリスト教学園は  
キリスト教の精神に基き、  
謙虚に真理を追求し、  
公正を尊び、真の隣人愛をもって  
人と社会に進んで奉仕し  
人類の福祉と世界の平和に貢献する  
人間の育成を目的とする

グーテンベルク聖書複製版

学校法人茨城キリスト教学園  
キリスト教センター所蔵

# 学生の活躍

## 子育て応援隊 ns26の活動について

文学部 児童教育学科 教授 中島 美那子

茨城キリスト教大学子育て応援隊ns26は、児童教育学科の児童教育専攻と幼児保育専攻の三年と四年生から成る団体です。母体は私（中島のゼミであり、「社会全体で子育て」をスローガンに活動しています。このns26のネーミングは、遡ること一〇年前のゼミ生たちが、自分たちが地域で活動するときの名前が欲しいということでした。当時は三年と四年を合わせて二五名だったところに、「先生も入りなよ」とゼミ生からの誘いを受けて、「中島ゼミナール二六名」となり、その略称でns26となったわけです。偶然にも一〇年後の今年度、ゼミ生は合わせて二五名。正真正銘のns26です。

さて、その活動はというと、まず代表的なものに、日立駅前商業施設での託児があります。日立市との連携事業「学生プロジェクト」の研究から始まったもので、今年度で二二年間続く活動です。この託児は子育て応援隊ns26が先輩から代々引き継いできており、現在は月に二回、ns26のメンバー全員でシフトを組んで行っています。何度も利用して下さる顔馴染みの親子もいらつしやる



ようで、とても良い関わりができています。その他にも地域のみなさまより、多くの声をかけていただき、様々な子育て支援を行ってきました。中でも昨年度や今年度実施したのは、日立市での「忍者修行遊び」の運営、常陸太田市「町屋deマルシェ」での子ども向けイベントの運営、本学学園祭実行委員会より依頼のあった「ベビースペース・キッズスペース」の運営、日立青年会議所の子育てイベントのお手伝いなどです。さらに現在は茨城県から依頼を受け、年度末の完成に向けて「社会全体で子育て」に関連する動画を作成しているところです。

実は今の四年生は、コロナ禍の影響を大きく受けた学生たちであり、入学当初からしばらくの間オンラインでしか授業が開講されなかつた学年です。当時は大学生になつたにも関わらずキャンパスライフを満喫できない不満や先の見えない不安にかられたことでしょう。その反動か、ns26の現在の活動は目を見張るものがあります。自ら動く、チームで動く、教員（私）をも動かす：今のns26の四年生メンバーとの二年間は、このような密度の濃いものでした。

現在、これまでのns26のメンバーはすでに社会人となつており、今の四年生もあと数ヶ月で社会へと飛び立ちます。みんなそれぞれの職場で活躍し、引き続き地域にも貢献していくことでしょう。私にとってそのようなns26メンバーの成長が楽しみであり、頼もしくもあります。



### 県北地域の魅力発信のため、レシピを開発!

食物健康科学科 三年次 長山 美月

私たちアイデアメニュー開発クラブは、茨城県県北地域の魅力発見・発信のため、産学連携「ひたち鯖魅力向上プロジェクトさばらい's」(以下さばらい's)のメンバーとして、特産物を使ったレシピ開発に取り組んできました。このプロジェクト名の「さばらい's」の由来は、日立でとれた鯖がメインであることから、「日立」の漢字で「日」が「立つ」となり「サンライズ」を指し、さばを掛け合わせて「さばらい's」と命名しています。

そして今回、私たちが考案した「鯖をぼろパーガー」を、「茨城デステイネーションキャンペーン(以下・茨城DC)」の「いばらきまぶくとトレイン」にて乗客の「さばらい's」にて乗客の皆様にご提供させていただきます。したので、ご報告いたします。

茨城DCとは、JRグループ様と各地域が協働で取り組んでいる国内最大級の観光キャンペーンで、「いばらきまぶくとトレイン」はJR水戸支社様の特別企画となります。茨城県内の様々な駅にてご当地グルメを積み込み、グルメを味わっていただきながら茨城の魅力を感じていただくイベント列車です。二〇二三年十月二十八日と十二月十六日の二回実施しました。

私たちは、日本有数の漁獲量を誇る日立産の鯖をアピールするため、レシピ開発時の鯖の提供から商品の製造まで、地元企業の株式会社飛勸水産様にご協力をいただきました。

レシピ開発後、このイベントまでに、大甕駅周辺で開催された「灯台のふもとマルシェ」で、自分たちが調理をした考案中の鯖パーガーで出店したり、何度も試食会を繰り返した



鯖をぼろパーガー

りしてきました。鯖の性質をよく理解し、彩りにもこだわったことを見た目からも楽しんでいただける商品にすることができたと自負しています。鯖をぼろパーガーがよりおいしく出来上がったのも、メンバーで協力してこの企画に取り組んだことの成果だと思っています。

また、飛勸水産様に直接取材をさせていただいたことも、より鯖への理解が深まり、茨城県や日立市の魅力の再発見をすることにも大きく繋がりました。

そして、より多くの皆様にも日立産の鯖の魅力を知っていただきたいと考えたことが、「いばらきまぶくとトレイン」への参加につながった経緯です。

イベント当日は、私たち自身の手で乗客のお客様に商品とこの活動を紹介するパンフレットをお渡しすることができ、私は運行した二回ともに、貴重な車内放送も体験させていただきました。実際にお客様への反応を見させていただいて、食を通じて喜んでいただけたのがとても嬉しかったです。この経験を私たちの財産として、これからも食と向き合いながらそれぞれの将来につなげていきたいと思います。

ぜひ皆様も機会がありましたら、日立産の鯖をご賞味ください。

左記で、私たちが発信しているインスタグラムをご覧ください。



# 四大学連携

## シンポジウムのご報告

地域・国際交流センター 長 岩 間 信 之

二〇二三年七月一日に、本学、茨城大学、筑波大学、常磐大学による連携シンポジウム『外国にルーツのある子どもたちと共に生きようー茨城県北部地域での多様な文化を尊重し合う子育て・子育て環境の検討ー』を開催しました。

在留外国人数が右肩上がりに増加し、また優れた外国人材の必要性が高まるなか、多様な文化・包摂性のある社会の実現を目指す多文化共生の推進は、我が国の重要な社会課題となっています。外国人住民が多い地域としては、群馬県太田市や静岡県浜松市などが有名です。しかし、外国人の大半は、実は茨城県北部地域のような外国人散在地域(外国人住民がコミュニティを形成せず、分散している地域)で暮らしています。



外国人散在地域は「外国人の顔の見えない」

定住化」が顕著であり、多文化共生に向けた課題が山積しています。なかでも、外国にルーツのある子どもたち(両親またはそのどちらか一方が外国出身者である子ども)が置かれた状況は深刻です。近年、家族の都合で来日し、日本語もままならぬまま不自由な生活を強いられている子どもたちが増えています。学校の勉強についていけずにドロップアウトする子どもや、家庭環境の問題で健康面や発達面に支障をきたしている子どもも多いです。しかし、こうした子どもたちへの支援はかなり不足しています。外国にルーツのある子どもたちへの支援は、「共に生きる」を教育理念に掲げる本学が取り組むべき重要な課題の一つです。

そこで今回、県北地域の多文化共生をキーワードとしたシンポジウムを開催しました。具体的には、外国にルーツのある子どもを取り巻く問題を整理したのち、四大学の支援事業の現状と課題を共有しました。また、今後の支援に向けたパネルディスカッションを行いました。当日は、急な広報であったにも関わらず、大学関係者のほか、幼稚園・高校の先生方や行政関係者、日本語教室関係者など、合計一八〇名の方にご来場頂きました。御礼申し上げます。シンポジウムの詳細、および本学の支援活動例については、大学HPをご覧ください。左記QRコードからもご確認ください。

外国にルーツのある子どもへの支援活動は、まだまだ「点」の状態です。個の活動には限界があります。今回のシンポジウムを契機に、支援活動の「輪」が形成されることを願っています。



シンポジウム報告書



本学の支援事業例 (IC with U)



今年も、朝早くから最終確認に取り組み参加者が多く見られました。幸いにも天気にも恵まれました。今年も、朝早くから最終確認に取り組み参加者が多く見られました。幸いにも天気にも恵まれました。

# 第七十回 茨城キリスト教学園 英語コンテスト

文学部 現代英語学科 講師 三輪 健太

二〇二三年十月二十日(金)、本学において『第七十回茨城キリスト教学園英語コンテスト』が開催されました。今回は高校生十一名、中学生二十名の計三十一名が、高校プレゼンテーション部の部、中学弁論部の部、中学ストーリー部の部の三部門に分かれて日頃の英語力を競いました。おかげさまで、本英語コンテストも七十回目を迎えることができました。これまでご参加いただいた中学生・高校生ならびに指導やサポートにあたられた先生方や保護者の皆様に感謝申し上げます。

まれ、コンテスト終了の解放感とともに、多くの方がキャンパス内で笑い声とともにランチを楽しんでいました。そして午後、表彰式が行われました。

審査員の先生による講評あるいはアドバイスを以下に簡単に紹介させていただきます。

□ 中学ストーリーの部  
面白いオリジナルの物語を、声のトーンを変えながら話す工夫が見られ、どの発表も非常に印象深いものであった。一部複雑に過ぎる内容も見られたが、短時間の物語はシンプルなお内容にする方が聞き手にとって理解しやすいものになる。

□ 中学弁論の部  
弁論で大事なことは、聞き手の目を見ること。原稿を読んでもしまうと、視線が下に向いてしまう。また、ゆっくりと話すことも重要である。聞き手のことを考え、聞き手が内容を理解する時間を与えるためにも、話の間を作るのが求められる。

□ 高校プレゼンテーションの部  
プレゼンテーションの出来はどれも素晴らしく、審査が難航した。過剰な表現をするのではなく、自然な発表に努められた方がよい。そのためには、自身の考えを友人に説明するようなイメージを持つと良いだろう。

コンテストに出場した生徒の皆さん、ご指導に当たられた中学・高校の先生方、保護者の皆様、ご参加誠にありがとうございました。来年度も多くの挑戦者の参加を学園一同お待ちしております。

### 地域国際交流センター便り

#### 国際交流関連

##### OC包括協定締結

##### 五〇周年記念式典について

本学とオクラホマ・クリスチャン大学(米国)は、一九七四年の包括協定締結以来、長年にわたり積極的な国際交流を続けており、二〇二四年に包括協定締結五〇周年を迎えます。

そこで、二〇二四年五月に本学へオクラホマ・クリスチャン大学の関係者をお招きし、学内にて記念式典を開催します。

つきましては、本学在籍中にオクラホマ・クリスチャン大学へ留学をされた方に限り、記念式典へご招待したく存じます。ぜひ、留学時の思い出話をお聞かせください。

詳細につきましては、下記のQRコードへご登録いただいた方にご案内いたします。



##### 二〇二四年度

##### ホストファミリー募集について

本学では、オクラホマ・クリスチャン大学(米国)からの短期留学生の受入にあたりホームステイにご協力いただけるホストファミリーを募集しています。

どなたでも応募可能ですので「英会話を学びたい」「海外の文化を知りたい」「外国人との思い出を作りたい」など、ご興味のある方は下記のQRコードを確認のうえお申込みください。



#### 地域交流関連

##### 聴講生制度について

聴講生制度とは、十八歳以上の方が正規の学生としての身分を持たずに大学の授業科目を聴講できる制度です。ただし、この制度では単位を修得することはできません。

学び直しの機会として、この制度を利用して聴講されている方も多くいらっしゃいます。

興味のある方は下記のQRコードをご覧ください。



##### 公開講座について

前期と後期に、語学、カルチャー、心理、健康など、本学の特徴を生かした講座を開講しています。半期ごとに受講生へアンケートを取り、関心度の高い講座を準備していますので、興味のある方は下記のQRコードからご確認ください。



### 大学マスケット キャラクター紹介

はじめまして、

大学マスケットのAZULICです！

日頃より本学へのご支援を賜り誠にありがとうございます。



本学には、すでに「茨城キリスト教大学」を表す「IC」のロゴがあります。数多くのグッズに印刷・活用されており、皆様もこのロゴを見れば、「茨城キリスト教大学ですね」と認識できるほどに定着していると感じます。

なかには大学のロゴに加え、大学それぞれの「マスケット」が作成されており、大学のイメージを担うマスケットが定着しています。本学ではこれまで各事務組織において作成されたマスケットはありましたが、大学全体では作成されていませんでした。そこで学長主導の企画として、皆さまに愛されるマスケットを作成することになりました。

学生たちが夏休みを迎える二〇二三年八月初め、学生および卒業生を対象として、広く皆様に愛されるようマスケットの募集が始まりました。締め切りである十月中旬には三〇点を超える作品が集まりました。心のこもった手書きの作品からイラストレーションに長けた作品、また在学生だけではなく、卒業生、留学生の方々からの応募も多くあり、いずれも力作ぞろいの作品が集まりました。応募時にはマスケットのコンセプト等を付記していただきましたが、それぞれの作品に想いが込められていることを強く感じました。

応募作品から本学園の建学の理念ならびに本学のイメージと適合する作品が四点選ばれ、その後の学生による投票と審査委員(学内教職員一〇名)による厳しい選考の末、最優秀作品一点と優秀作品三点が選考されました。

二〇二三年十一月三日、学園祭のメインステージにおけるひとつのイベントとして、多くの観客が見守る中、表彰を行うとともに最優秀作品がお披露目されました。本学文学部現代英語学科の卒業生(二〇二二年度卒業である木幡知穂里さんの作品、AZULIC(アズリック)が最優秀作品として選ばれました。

作成者の木幡さんによると、海に近く自然と街並みのバランスが良いところが茨城キリスト教大学の魅力のひとつと考え、大学の近くにも生息する幸せの青い鳥としてイメージされる「イソヒヨドリ」からインスピレーションを得て作成されたとのこと。ICカラーの青色、「共に(幸せに)いきる」という建学の精神ともぴったりと合うことが感じられます。また名前のAZULICは、本学のスクールカラーでもある青を表す英語(AZUL)と大学を示す言葉である「IC」を組み合わせて、マスケットの名前としたこと。

採用された作品は、茨城キリスト教大学の広報活動(パンフレット、HP等)で広く使用する予定です。大学として、キャンパスグッズを作成し皆様に永く愛されるマスケットになればと思っています。最後になります。マスケットデザインへの多数のご応募、ありがとうございました。



マスケットキャラクター表彰式